岡山県埋蔵文化財発掘調査報告　77

赤浜散布地

県営土地改良総合整備
事業に伴う確認調査

1991年3月

岡山県教育委員会

序

岡山県教育委員会では、総社市赤浜、下林、窪木一帯において計画されている県営土地改良総合整備事業の実施に先立って、埋蔵文化財の資料を得て、遺跡の保護・保存と土地改良総合整備事業との調整を図るため、平成元年度から確認調査を実施しています。本年度の調査は、赤浜地区に所在する赤浜散布地を対象に、平成2年度国庫補助事業として実施したものであります。

調査の結果、弥生時代から中世までの竪穴住居・溝・柱穴などの遺構が検出され、弥生時代から近世にかけての土器・土製品・石器・鉄製品などの遺物が出土しました。この調査結果に基づき、現在関係機関等と保存協議を進めているところであります。

本報告書が、文化財の保護・保存のために活用され、また、地域の歴史を研究する資料として広く役立てば幸いと存じます。

最後に、調査並びに報告書の作成にあたって、岡山県文化財保護審議会委員をはじめ、総社市、総社市教育委員会並びに土地所有者等関係各位から賜りました多大な御協力と御指導に対し、厚く御礼申し上げます。

平成3年3月

岡山県教育委員会

教育長　竹　内　康　夫

例　言

1．本書は、岡山県教育委員会が、総社市赤浜ほかにおける県営土地改良総合整備事業に伴い、平成２年度国庫補助を受けて実施した「赤浜散布地」の発掘調査報告書である。

2．遺跡は、総社市赤浜に所在する。

3．発掘調査にあたっては、専門委員の鎌木義昌（岡山理科大学理学部教授、岡山県文化財保護審議会委員）・近藤義郎（岡山大学文学部名誉教授、岡山県文化財保護審議会委員）・水内昌康（岡山県文化財保護審議会委員）の各氏から指導・助言を受けた。

4．発掘調査は、岡山県古代吉備文化財センター職員小松原基弘が担当し、平成２年４月９日から平成２年５月23日まで実施した。

5．発掘調査にあたっては、総社市、総社市教育委員会、地権者各位から多大な援助を受けた。

6．本書の執筆、編集は、岡山県古代吉備文化財センター（岡山市西花尻1325－３）において、小松原が行った。

7．本書に使用したレベルの数値は海抜高である。方位は、第１・２図が真北、他は磁北である。

8．本書第２図に使用した地形図は、建設省国土地理院発行の25,000分の１地形図（総社東部）を30,000分の１に縮尺複製したものである。

9．出土遺物、実測図、写真等は岡山県古代吉備文化財センターにおいて保管している。

目　　次

例　言
目　次
第１章　地理的・歴史的環境 …… 1
第２章　調査の経緯 …… 3
第３章　発掘調査の概要 …… 5
第４章　まとめ ……28

図　目　次

第１図　遺跡位置図(黒丸印)(1/2,000,000) … 1
第２図　周辺遺跡分布図(1/30,000) …… 2
第３図　遺跡周辺地形図および確認調査
　　対象範囲(斜線部)(1/8,000) …… 6
第４図　トレンチ位置図(1/5,000) …… 7
第５図　Ｔ－１・３～６土層断面図,
　　Ｔ－２平・断面図(1/80) …… 8
第６図　Ｔ－７平・断面図, Ｔ－８～12
　　土層断面図(1/80) …… 9
第７図　Ｔ－13～18土層断面図(1/80) ……10
第８図　Ｔ－19～21土層断面図(1/80) ……11
第９図　Ｔ－７～20出土遺物(1/4･1/2) ……12
第10図　Ｔ－22・23・25・26土層断面図,
　　Ｔ－24平・断面図(1/80) ……13
第11図　Ｔ－22～26出土遺物(1/4･1/2) ……14
第12図　Ｔ－27・28平・断面図,
　　Ｔ－29・30土層断面図(1/80) ……15
第13図　Ｔ－27出土遺物(1/4) ……16
第14図　Ｔ－28出土遺物(1/4･1/2) ……16
第15図　Ｔ－30出土遺物(1/4) ……16
第16図　Ｔ－31・32平・断面図,
　　Ｔ－33～35土層断面図(1/80) ……18
第17図　Ｔ－31出土遺物(1/4) ……19
第18図　Ｔ－33・35出土遺物(1/4) ……19
第19図　Ｔ－36～40土層断面図(1/80) ……20
第20図　Ｔ－36出土遺物［１］(1/4) ……21
第21図　Ｔ－36出土遺物［２］(1/4) ……22
第22図　Ｔ－36出土遺物［３］(1/4) ……23
第23図　Ｔ－36出土遺物［４］(1/2) ……24
第24図　Ｔ－41土層断面図, Ｔ－42～44
　　平・断面図(1/80) ……25
第25図　Ｔ－45・46土層断面図(1/80) ……26
第26図　Ｔ－38～46出土遺物(1/4・1/2) ……26
第27図　遺跡範囲想定図(1/8,000) ……28

図版目次

図版１－１　赤浜散布地全景
図版１－2～5　Ｔ－１・２・７・９
図版２　Ｔ－10～13・15～18
図版３　Ｔ－19・20・22～27
図版４　Ｔ－28・31～34・36～38
図版５－1～7　Ｔ－39～44・46
図版５－８　Ｔ－36埋め戻し風景
図版６　出土遺物(１)
図版７　出土遺物(２)
図版８　出土遺物(３)

表　目　次

表－１　トレンチ調査概要一覧表 ……27

第１章　地理的・歴史的環境

岡山県三大河川の一つである高梁川は中国山地に源を発しており、吉備高原を縫って南流し、瀬戸内海に注いでいる。古くは総社市湛井付近から東に曲流し、足守川・笹ヶ瀬川の流路をとって児島湾に注いでいたと考えられており、現在も高梁川分流は十二箇郷用水として足守川に注いでいる。この高梁川旧河道の堆積作用によって造り出された広大な沖積平野が総社平野である。「赤浜散布地」は総社平野東部の高梁川分流と足守川との合流点近くに位置する。

赤浜から砂川を挟んで東側には、山陽自動車道建設に伴う発掘調査が行われた高塚遺跡が所在する。高塚遺跡は弥生時代から中世にかけての集落遺跡で、銅鐸、貨泉が発見されている(註１)。赤浜の南には標高50～60mの三須丘陵が広がる。丘陵上には、庚申山古墳群、法蓮古墳群（註２)、下林古墳群、松井古墳群、稲荷山古墳群、緑山古墳群（註３）等全部で約350基の古墳が確認され、古墳時代の全期間を通じて存続した造墓地である。前川を挟んで西には窪木薬師遺跡が位置する。古墳時代後期を中心とする集落遺跡である。また北西には県立大学建設予定地で新たに発見された窪木遺跡・南溝手遺跡がある。弥生時代から中世にかけての複合遺跡で、現在発掘調査中である。また北方の平野北縁には古代山城鬼ノ城（註４）が所在する。鬼ノ城東側では、土塁、砦遺構の残る千引遺跡群（註５)、６世紀後半の製鉄遺跡である千引かなくろ谷製鉄遺跡（註６）が発掘調査中である。北西には栢寺廃寺（註７）が位置し、備中国府推定地（註８）も近い。この他、東２kmには水攻めで名高い備中高松城跡が所在し、周辺丘陵には戦国時代の山城も築かれている。赤浜散布地の所在する総社平野東部は各時代を通じて重要な役割を担ってきた地域である。

註

註１　『所報吉備』第７号　岡山県古代吉備文化財センター　1989
『所報吉備』第８号　岡山県古代吉備文化財センター　1990

註２　『法蓮古墳群』「総社市埋蔵文化財発掘調査報告２」総社市教育委員会　1985
『法蓮40号墳』「総社市埋蔵文化財発掘調査報告４」総社市教育委員会　1987

註３　『緑山古墳群』緑山古墳群調査団　1987

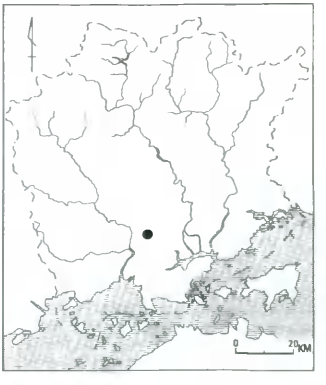
註４　『鬼ノ城』鬼ノ城学術調査委員会　1980

註５　『鬼ノ城ゴルフ倶楽部建設に伴う埋蔵文化財発掘調査現地説明会資料』総社市教育委員会　1990

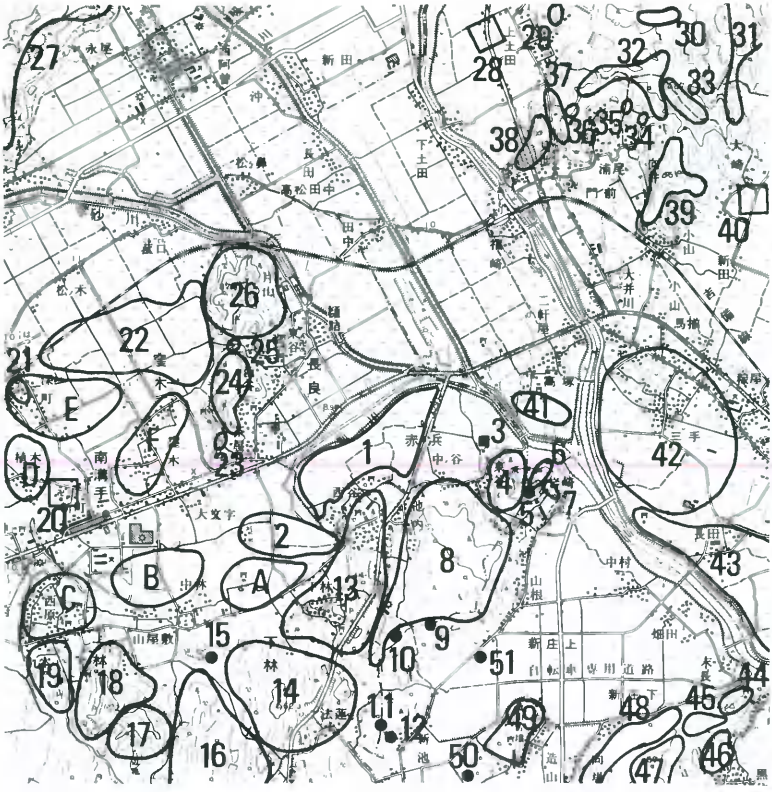
註６　『千引かなくろ谷製鉄遺跡現地説明会資料』総社市教育委員会　1990

註７　『栢寺廃寺緊急発掘調査報告』「岡山県埋蔵文化財発掘調査報告34」岡山県教育委員会　1979

註８　『備中国府跡緊急確認調査』「総社市埋蔵文化財発掘調査報告７」総社市教育委員会　1989



第１図　遺跡位置図（黒丸印）（1/2,000,000）



1．赤浜散布地(調査地)
2．窪木薬師遺跡
3．赤浜城山城跡
4．庚申山古墳群(総社市)
5．庚申山遺跡
6．庚申山東遺跡
7．庚申山古墳群(岡山市)
8．雲上山Ⅰ～40号墳
9．小造山古墳
10．夫婦塚(のみや)古墳
11．銚瓶塚古墳
12．新池大塚古墳
13．下林古墳群
14．法蓮古墳群
15．亀山古墳
16．松井古墳群
17．ドンドン山古墳群
18．稲荷山古墳群
19．緑山古墳群
20．賀夜廃寺跡(栢寺廃寺)
21．深町遺跡
22．窪木遺跡・南溝手遺跡
23．本台山遺跡
24．本台山古墳群
25．長良山遺跡
26．長良山古墳群
27．久米古墳群
28．延寿寺跡
29．散布地
30．上土田古墳群
31．大崎古墳群
32．浦尾古墳群
33．大崎西古墳群
34．散布地
35．散布地
36．散布地
37．散布地
38．生石神社裏山古墳群
39．向井古墳群
40．大崎廃寺
41．高塚遺跡
42．三手遺跡
43．津寺遺跡
44．南崎天神遺跡
45．南崎古墳群
46．津寺Ｃ遺跡
47．黒住山古墳群
48．向場古墳群
49．造山古墳
50．榊山古墳
51．車塚古墳
Ａ～Ｆ　散布地

第２図　周辺遺跡分布図（1/30,000）

第２章　調査の経緯

総社市赤浜、下林、窪木一帯において県営土地改良総合整備事業が計画されているが、当地については、総社市教育委員会から昭和63年９月30日付で、文化財保護法57条の６第１項の規定による遺跡発見届が上げられ、それに伴い遺跡の範囲確定および、遺跡保存の協議資料を得るため、工事着手前に国庫補助を受けて数年次にわたる確認調査を実施することとなった。

発掘調査は、岡山県古代吉備文化財センターが、専門委員の指導・助言を得て平成元年度から実施している。平成元年度調査は、平成元年11月６日から平成２年１月23日まで実施され、赤浜地区の東側３分の１の地域と下林地区の東側半分の地域について遺跡の範囲等が明らかになった。

平成２年度の発掘調査は、赤浜地区の西側３分の２の地域について平成２年４月９日から平成２年５月23日まで実施した。

調査にあたっては、総社市役所、総社市教育委員会、地権者等関係各位から多大な御協力を得た。また発掘作業にあたっては、地元有志の方々に御協力を得た。記して厚く御礼申し上げます。

調査体制

岡山県古代吉備文化財センター

所長	長瀬日出明
次長（調査第一課長）	河本　清
総務課長	竹原　成信
文化財保護主事	小松原基弘（調査担当）

発掘作業員

岡　了・杉井信平・杉山　長・中川照子・芳谷恒夫・前田信子・槙枝慎一・槙枝好恵・守谷克己・守谷幹夫

日　誌　抄

平成２年

４月９日（月）　調査準備・作業打合せ

11日（水）　器材搬入　Ｔ－６・７・８・18・19・20掘り下げ　Ｔ－６・７・８写真撮影　Ｔ－６断面実測

12日（木）　Ｔ－10・16・17・18・19・20掘り下げ　Ｔ－18・19・20写真撮影　Ｔ－７・８・18断面実測

16日（月）　Ｔ－２・３・９・10・16・17掘り下げ　Ｔ－10・16・17写真撮影　Ｔ－16・17・19断面実測

17日（火）　T－1・2・3・4・5・9・11・15・21掘り下げ　T－1・2・3・4・5・9写真撮影　T－1・2・3・9・10・20断面実測

18日（水）　T－11・12・13・14・15・21・22・23掘り下げ　T－11・12・13・15・21写真撮影　T－4・5・11・15・21断面実測

19日（木）　T－14・22・23・24・25・27・29掘り下げ　T－14・22・23・25写真撮影　T－12・13・14・22・23断面実測

20日（金）　T－24・27・29・31・32・36掘り下げ　T－24・27・29写真撮影　T－24・25断面実測

21日（土）　トレンチ位置測量

24日（火）　T－30・31・32・34・35・36・43掘り下げ　T－30・31・32・34・36写真撮影　T－27・29・31・32断面実測

25日（水）　T－33・35・39・40・43・44・45・46掘り下げ　T－35・39・43・44・46写真撮影　T－30・34・35・36断面実測

26日（木）　T－33・40・45掘り下げ・写真撮影　T－33・39断面実測　T－2・9埋め戻し

27日（金）　T－43・44・45・46断面実測　T－1・3・4・5・9・10・11・15埋め戻し

5月1日（火）　T－40断面実測　T－6・7・8・19・20埋め戻し

2日（水）　防雨作業

7日（月）　T－16・17・18・21埋め戻し

8日（火）　T－12・13・14・22・25埋め戻し

9日（水）　T－37・41・42掘り下げ　T－41写真撮影　T－46埋め戻し

10日（木）　T－26・28・38掘り下げ　T－37・42写真撮影　T－37・41・42断面実測

11日（金）　T－26・28・38写真撮影　T－26・38断面実測　T－24・39・40・41・43・45埋め戻し

12日（土）　トレンチ安全点検

14日（月）　T－28断面実測　T－44埋め戻し

15日（火）　T－28断面実測　T－23・27・31埋め戻し

16日（水）　T－26・28・32・36・37埋め戻し

17日（木）　T－21・29・34・35・38・42埋め戻し

18日（金）　防雨作業

19日（土）　トレンチ安全点検

21日（月）　T－30・33埋め戻し　T－7補修

22日（火）　T－7補修　トレンチ安全点検
器材片付け

23日（水）　器材片付け　撤収

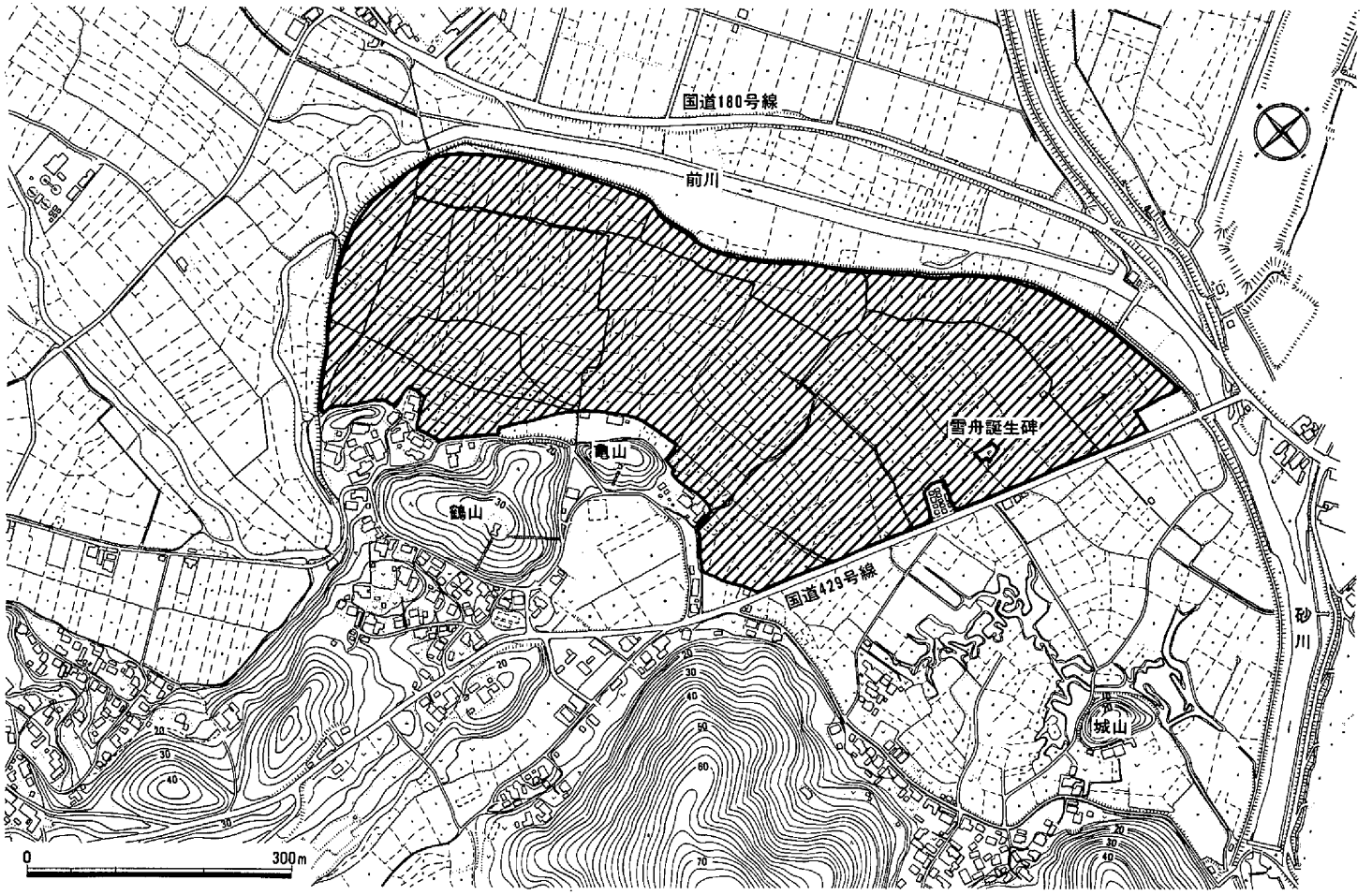
第３章　発掘調査の概要

今回の発掘調査の対象範囲は、赤浜地区の西側約３分の２の地域で、Ｔ－１からＴ－46まで２×５ｍのトレンチ46本を掘開して遺跡の範囲等を確認する調査を行った。各トレンチについての調査結果は以下のとおりである。

Ｔ－１～21（第５～９図）

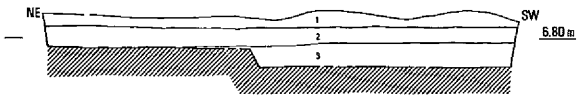
Ｔ－１からＴ－21は、調査区の西側に設定したトレンチである。Ｔ－１では、耕作土下に客土とみられる粘土層と近現代の洪水砂と思われる砂層が確認された。出土遺物はなかった。Ｔ－２・３は、灰褐色砂質土の下層で灰黄褐色の粘性を帯びた砂が堆積している。Ｔ－２では、第４層を切り込んで、近世と考えられる溝状遺構２条を検出した。トレンチ内から遺物は出土しなかった。Ｔ－３では、第３層から摩滅した土師質土器片等が出土している。Ｔ－４では、多量の円礫を含む溝状の落ち込みが確認されたが、時期等については不明である。出土遺物はなかった。落ち込みの下層は暗褐色を呈する砂質土である。Ｔ－５では、第３層から少量の遺物が出土しているが、近世以降の客土と考えられる土層である。その下層はＴ－４と同じく暗褐色砂質土である。Ｔ－６では、耕作土直下で近現代の洪水砂と思われる砂層の分厚い堆積が観察された。

Ｔ－７・８は、調査区の南に位置する「鶴山」と呼ばれる小高い丘の北西裾に位置し、それぞれ第３層が中世の包含層であると考えられる。Ｔ－７では、第４層の上面で溝状遺構１条を検出した。溝状遺構は、幅約20cmで非常に浅いものである。１はＴ－７で出土した白磁椀の底部片である。他に土師質土器等が出土している。２はＴ－８で出土した須恵器片である。Ｔ－９は、Ｔ－２・３と同じく、灰褐色砂質土、灰黄褐色砂質土の堆積が確認され、遺物が少量出土している。Ｔ－10・11・12も同様の堆積が確認された。Ｔ－10では、第４層が中世の包含層と考えられ、土師質土器椀の底部４、小皿３等が出土している。Ｔ－11では、中世土器に混じって「嘉祐元寳」とみられる北宋銭（初鋳1056年）１枚が出土している。Ｔ－12の第４層からは土師質土器椀の底部５等摩滅した土器の他に鉄釘Ｉ１が出土している。Ｔ－13は灰褐色砂質土の下層に暗灰黄褐色の粘性砂質土が堆積しており、東へ延びる微高地上に位置すると思われるが、出土遺物はなかった。Ｔ－14からも遺物は出土しなかった。Ｔ－15の第３層は円礫が多く入る土層で８・９・11等が出土している。Ｔ－16では、第３・４層に遺物を包含している。土師質土器・白磁片に混じり、摩滅の著しい弥生土器片６も出土している。また、第６層では粘質土中に多量の円礫を確認した。Ｔ－17では、焼土の入る炭層がトレンチ北側で確認された。炭層からは近世の陶器、「寛永通寳」とみられる銭貨等が出土した。トレンチ南側の第４層は近

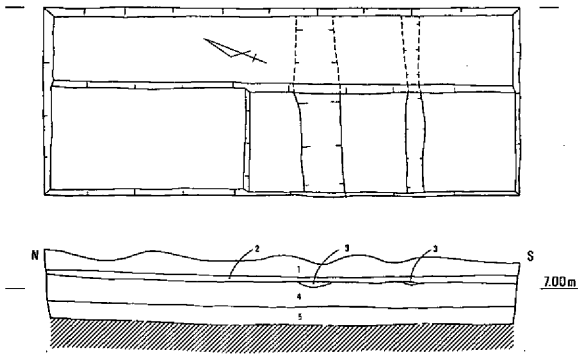


第３図　遺跡周辺地形図および確認調査対象範囲（斜線部）（1/8,000）

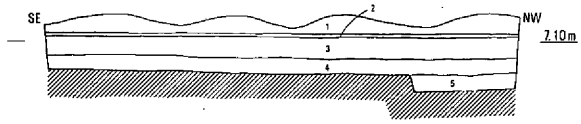
第４図　トレンチ位置図（1/5,000）



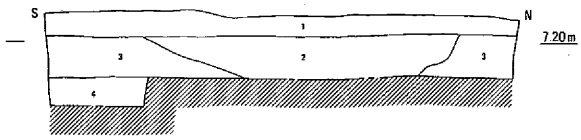
T－1
1．暗灰色粘質土
2．暗灰色粘質土
3．明黄褐色細砂



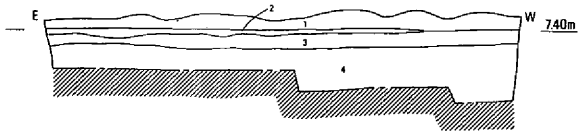
T－2
1．暗灰色粘質土
2．明黄色砂質土
3．灰白褐色砂質土
4．灰褐色砂質土
5．灰黄褐色粘性砂質土



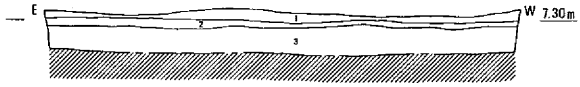
T－3
1．暗灰色粘質土
2．明黄褐色砂質土
3．暗灰褐色砂質土
4．灰褐色砂質土
5．灰黄褐色粘性微砂



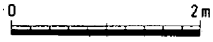
T－4
1．暗灰色粘質土
2．暗褐色円礫混じり砂質土
3．暗褐色砂質土
4．暗茶褐色粘性微砂



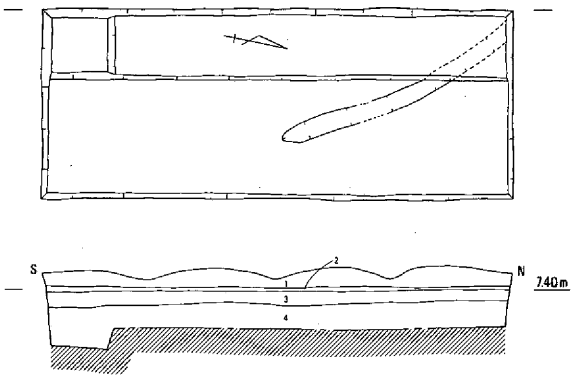
T－5
1．暗灰色粘質土
2．灰黄褐色砂質土
3．灰色砂質土
4．暗褐色粘質土



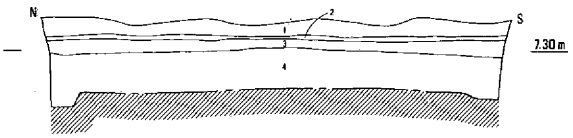
T－6
1．暗灰色粘質土
2．淡灰褐色細砂
3．淡灰黄色細砂



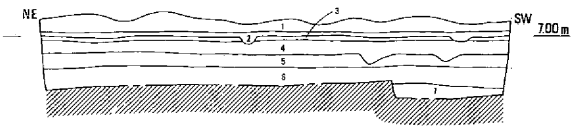
第５図　Ｔ－１・３～６土層断面図，Ｔ－２平・断面図（1/80）



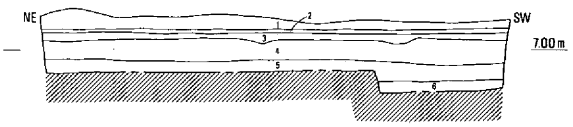
T－7
1．暗灰色粘質土
2．灰橙褐色砂質土
3．淡灰褐色砂質土
4．灰褐色砂質土



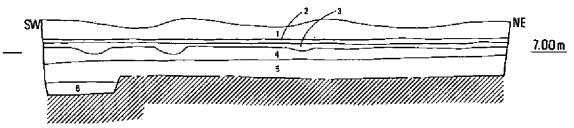
T－8
1．暗灰色粘質土
2．灰橙褐色砂質土
3．淡灰褐色砂質土
4．暗灰褐色砂質土



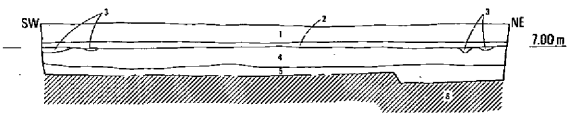
T－9
1．暗灰色粘質土
2．淡灰黄褐色砂質土
3．淡灰黄褐色砂質土
4．淡灰褐色砂質土
5．灰黄褐色砂質土
6．灰黄色粘性砂質土
7．青灰色粘性微砂



T－10
1．暗灰色粘質土
2．黄褐色砂質土
3．灰白褐色砂質土
4．淡灰褐色砂質土
5．淡灰黄褐色砂質土
6．淡灰黄色微砂

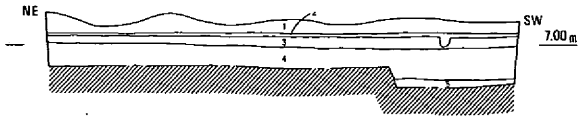


T－11
1．暗灰色粘質土
2．黄褐色砂質土
3．灰白褐色砂質土
4．淡灰褐色砂質土
5．灰褐色砂質土
6．灰黄褐色粘性微砂

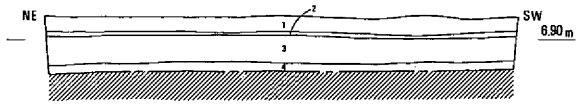


T－12
1．暗灰色粘質土
2．橙褐色砂質土
3．灰白色砂質土
4．淡灰褐色砂質土
5．淡灰黄褐色砂質土
6．淡灰黄褐色微砂

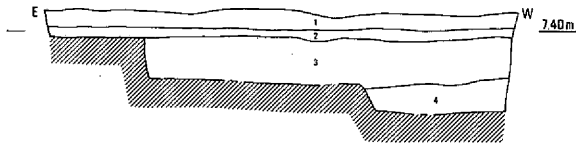
第6図　T－7平・断面図，T－8～12土層断面図（1/80）



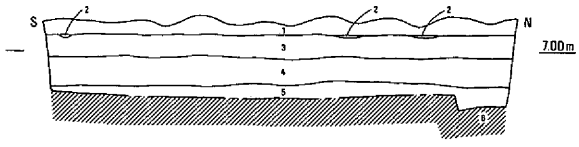
T－13
1．暗灰色粘質土
2．橙褐色砂質土
3．淡灰褐色砂質土
4．暗灰黄褐色粘性砂質土
5．灰黄褐色粘性微砂



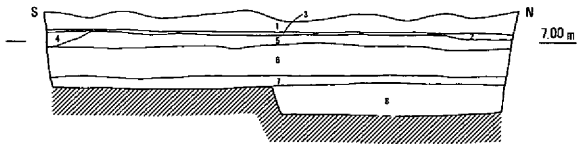
T－14
1．暗灰色粘質土
2．淡灰橙褐色砂質土
3．淡灰褐色砂質土
4．淡灰黄褐色微砂



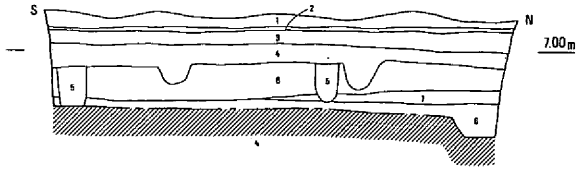
T－15
1．暗灰色粘質土
2．灰褐色砂質土
3．暗灰褐色円礫混じり砂質土
4．暗褐色粘性砂質土



T－16
1．暗灰色粘質土
2．橙褐色砂質土
3．淡灰黄褐色砂質土
4．灰黄褐色粘性砂質土
5．灰黄色粘質土
6．灰黄色円礫混じり粘質土

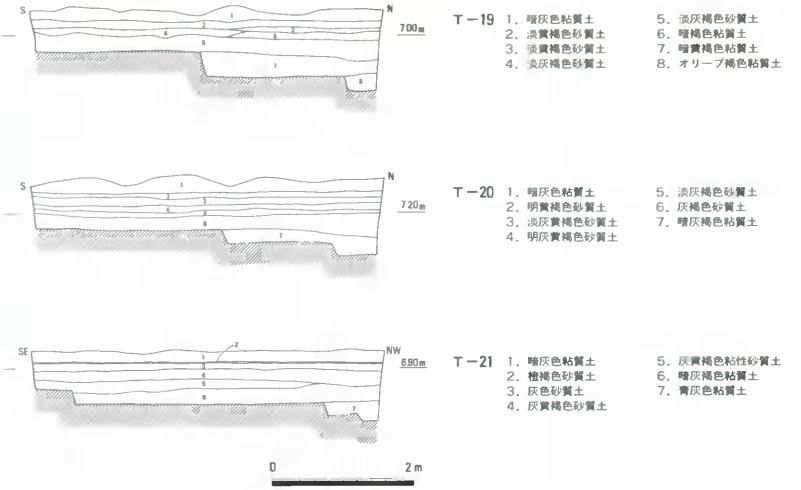


T－17
1．暗灰色粘質土
2．橙褐色砂質土
3．黒灰色粘質土（炭層）
4．淡灰褐色砂質土
5．淡灰黄褐色砂質土
6．灰黄褐色粘性砂質土
7．灰黄色粘質土
8．オリーブ褐色粘質土



T－18
1．暗灰色粘質土
2．灰橙褐色砂質土
3．淡灰黄褐色砂質土
4．淡灰褐色砂質土
5．暗灰褐色粘質土
6．暗褐色粘質土
7．灰黄褐色粘質土
8．青灰褐色粘性微砂

第７図　Ｔ－13～18土層断面図（1/80）



第８図　Ｔ－19～21土層断面図（1/80）

世の溝状遺構の埋土と思われる。第６層にも遺物が認められる。

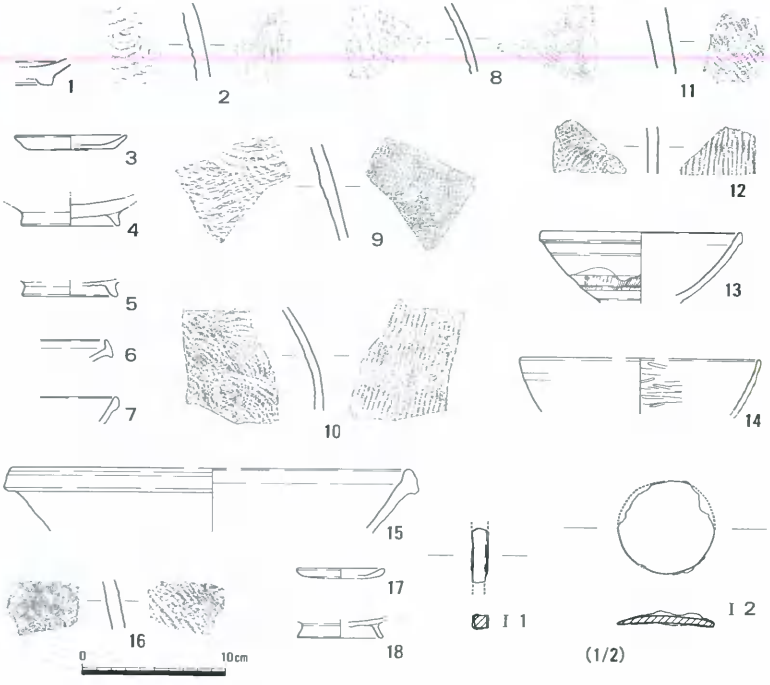
Ｔ－18から**Ｔ－21**は「鶴山」の北裾に位置する。**Ｔ－18**の第３層は、近世の水田層である。第４層からは**10・12・14**等が出土している。**14**は内黒土器の椀で、外面は摩滅しており調整不明であるが、内面はヘラミガキされている。第６層の上面では柱穴が数本検出された。トレンチ南端の柱穴の底からは白磁椀**13**が出土している。**Ｔ－18**では他に、直径3.4cm、厚さ0.4cmを測る円盤状の鉄製品Ｉ２が出土している。**Ｔ－19**の第２・３層は近世の水田層とみられる。第４・５層から白磁椀**7**の他土師質土器等が出土しているが、遺構は検出されなかった。第６層は暗褐色を呈する粘質土である。**Ｔ－20**では、第２層から第５層まで近世と思われる水田層が数枚認められ、**15**～**18**の他、青磁片等の遺物が出土している。いずれの遺物も水田層に混入したものと考えられる。**Ｔ－21**では、第４・５層から須恵器等少量の遺物が出土している。

Ｔ－22～28（第10～14図）

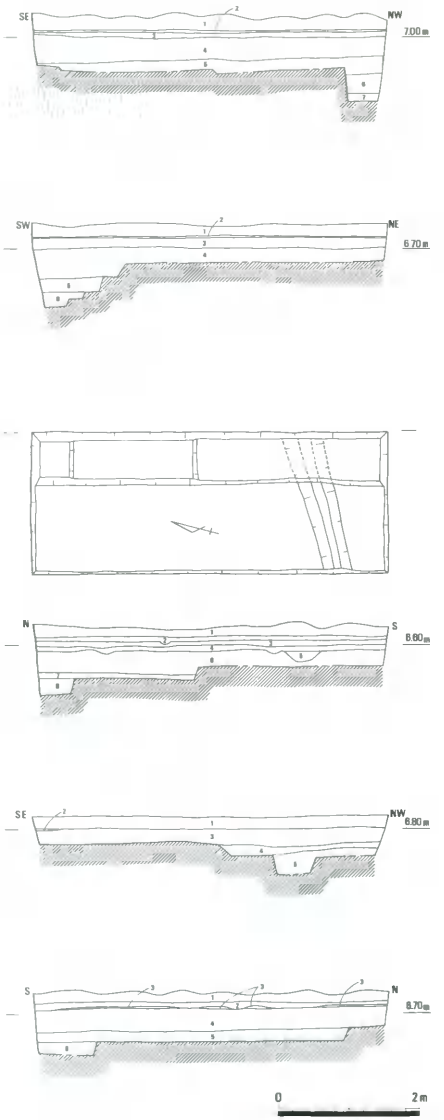
Ｔ－22から**Ｔ－28**は、調査区のほぼ中央部に設定したトレンチである。**Ｔ－22**第３層は、淡灰褐色を呈する砂質土で、中世の包含層と考えられる。第６層は弥生時代の包含層で、弥生時代後期の土器を多く包含している。**20**は須恵器片で第３層から出土した。**19**は第６層出土の壺形土器の口縁部で、口縁端部はヨコナデされている。**Ｔ－23**では、第３層が中世の包含層、第５・６層が古墳時代、弥生時代の包含層と考えられる。出土した遺物は**24・25・28**～**31**、鉄製

品Ｉ４等である。24は壺形土器の口縁部で、頸部から大きく外反した二重口縁の端部はヨコナデされている。28は坩形土器で、摩滅が著しいが外面の一部にハケメが認められる。Ｉ４は鉈の一部と考えられる。残存長２㎝、幅0.9㎝、厚さ0.5㎝を測る。Ｔ－24では、第２層から第４層まで近世と考えられる水田層が認められ、その直下から溝状遺構１条を検出した。溝状遺構は幅約20㎝、検出面からの深さ12㎝でほぼ東西方向に走っている。中世の包含層は近世以降に削平を受けていると思われる。水田層中に21～23・26等の遺物を包含している。21は備前焼の擂鉢である。23は土師質土器椀である。また第６層からは少量の弥生土器片が出土している。Ｔ－25では、耕作土直下で細砂層が確認された。砂層は円礫を多く含んでおり、微高地の縁辺部の様相を呈する。遺物は第２・３層に少量みられる程度である。27は甕形土器の口縁部で、端部に凹線文が巡っている。Ｉ３は鉄釘である。

Ｔ－26は調査区の中央部北側の堤防際に位置している。第２・３層は水田層と考えられる。



第９図　Ｔ－７～20出土遺物（1/4・1/2）

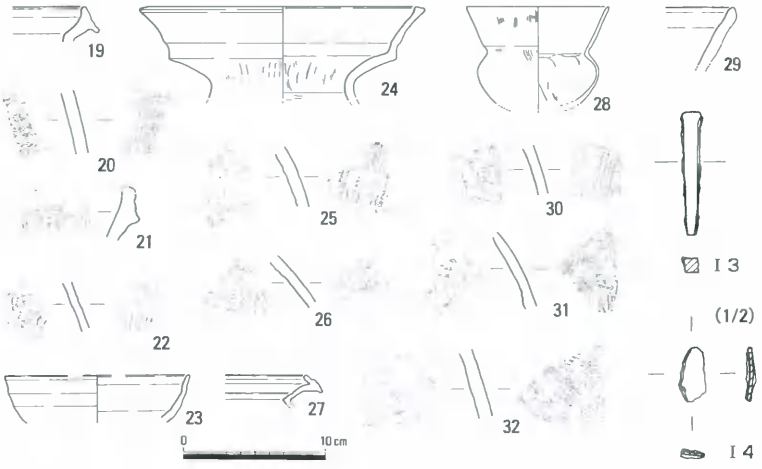


第10図　Ｔ－22・23・25・26土層断面図，Ｔ－24平・断面図（1/80）

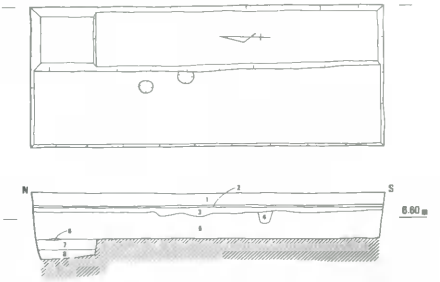
第４・５層からは、**32**の他、土鍋、土師質土器、青磁等が出土している。**Ｔ－27**では、淡灰褐色を呈する第３層が中世包含層と考えられる。第５層は暗灰黄褐色の粘性を帯びる砂質土で、弥生時代の包含層である。第５層の上面で柱穴数本を検出した。また、第６層は灰白色の粘性を帯びる微砂が幅約20cmにわたって薄く堆積する土層で、何らかの遺構の可能性がある。出土した遺物のうち、**33**は壺形土器の破片で、上下に拡張した口縁端部に凹線文が３条巡っている。**38**は須恵器の壺で、内外面とも丁寧にナデられている。**Ｔ－28**では、第２層から第４層が近世と考えられる水田層である。第５層は中世の包含層で、土鍋**47**・**48**、土師質土器椀**51**、亀山焼片**49**・**50**等が出土している。**Ｉ５**も第５層から出土した遺物で、一辺3.6㎝の薄い正方形の板状鉄製品である。中央に直径１㎝の円孔が開いている。第６層の上面では土壙数基、柱穴２本が検出された。第６層は弥生時代の包含層と考えられ、**41**～**46**等の遺物が出土している。**41**は壺形土器で、頸部から外反した口縁の端部が上方に拡張されヨコナデされている。外面頸部にはタテ方向のヘラミガキが施されている。内面は胴部上端までヘラケズリされ、頸部に指頭圧痕が認められる。**42**・**43**は甕形土器の口縁部片である。**44**は鉢形土器で、内面にヘラミガキが施されている。

Ｔ－29・30（第12・15図）

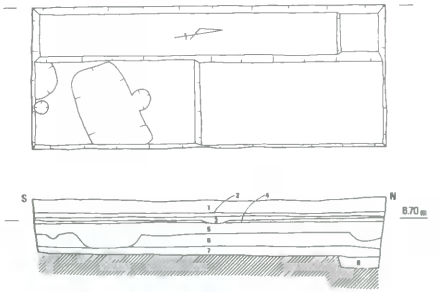
Ｔ－29・30は、調査区の南に位置する「亀山」と呼ばれる小山の裾に設定したトレンチである。**Ｔ－29**では、東半で用水路であった部分を花崗岩バイラン土による客土を施して埋めてい



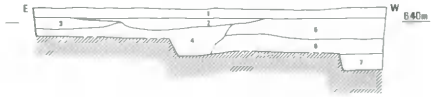
第11図　Ｔ－22～26出土遺物（1/4・1/2）



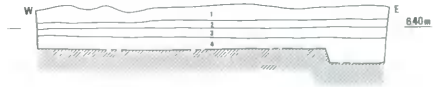
T－27
1．暗灰色粘質土
2．橙褐色砂質土
3．淡灰褐色砂質土
4．灰黄褐色粘性砂質土
5．暗灰黄褐色粘性砂質土
6．灰白色粘性微砂
7．暗灰黄色粘性砂質土
8．青灰色粘性微砂



T－28
1．暗灰色粘質土
2．橙黄褐色粘性砂質土
3．灰白褐色砂質土
4．橙黄褐色粘性砂質土
5．淡灰褐色砂質土
6．暗灰褐色粘性砂質土
7．灰黄褐色粘性微砂
8．暗青灰色粘性微砂



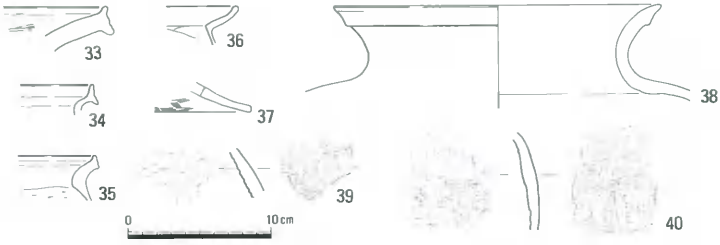
T－29
1．暗灰色粘質土
2．灰色砂礫混じり粘質土
3．灰黄褐色砂礫,混じり粘質土
4．明黄褐色砂礫,混じり粘性砂質土
5．灰褐色砂礫混じり粘質土
6．暗灰色粘質土
7．暗青灰色粘性微砂



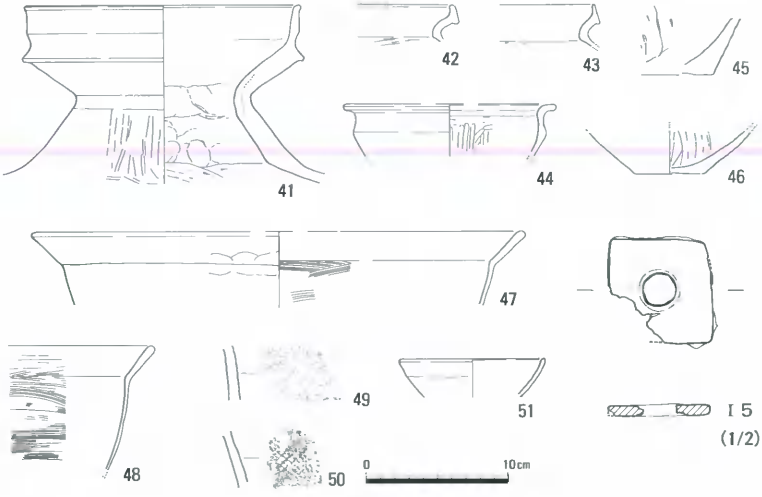
T－30
1．暗灰色粘質土
2．淡灰黄褐色砂礫,混じり粘質土
3．灰白色砂礫混じり粘質土
4．明黄褐色粘性微砂

0　2m

第12図　T－27・28平・断面図，T－29・30土層断面図（1/80）

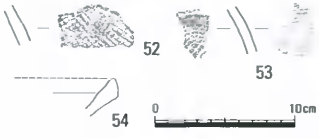


第13図　Ｔ－27出土遺物（1/4）



第14図　Ｔ－28出土遺物（1/4・1/2）

る状況が確認された。また、西半では灰色から暗青灰色の粘土が堆積しており、湿地の様相を呈している。遺物としては近世陶磁器等が少量出土している。Ｔ－30では、近世と思われる水田層の堆積が顕著であった。第２・３層がそれにあたり、52～54の他、土師質土器等が出土している。水田層の下層はグライ化が進んだ粘性



第15図　Ｔ－30出土遺物（1/4）

微砂が認められ、Ｔ－29と同じく、湿地であったことを示す堆積状況であった。

Ｔ－31・32（第16・17図）

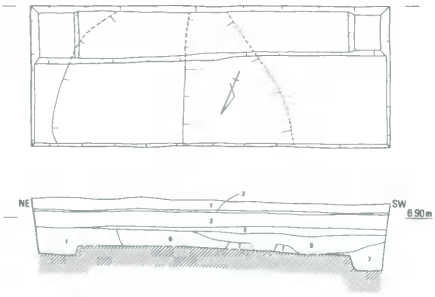
Ｔ－31・32は、調査区南東側に設定したトレンチで、南東から延びる丘陵の裾に位置する。Ｔ－31では、近世水田層下の第４層で弥生時代から近世にかけての遺物が大量に出土した。第５層は幅約３ｍの溝状遺構である。第７層は黄褐色を呈する基盤層で、その上面から竪穴住居１軒を検出した。一辺３ｍの隅丸方形か円形の住居と考えられ、埋土中に炭化材が観察できることから、火災を受けた住居であると思われる。図示した遺物は全て第４層から出土したものである。55は壺形土器の口縁部片で端部に凹線文が２条巡っている。56は壺形土器の頸部から「く」の字に外反した口縁部で、端部は斜め上下方に拡張されヨコナデされている。58・59・61・62は甕形土器である。58は大きく外反した口縁の端部に１条の凹線文が巡っている。61・62は口縁端部に櫛描沈線文が７～９条巡っている。57・60は鉢形土器である。63は台の付く鉢形土器の底部で外面に指頭圧痕が残り、底面はヘラミガキされている。64～67は高杯形土器の脚部である。68・69は土師質土器の小皿である。Ｔ－32では、耕作土直下に基盤層が認められた。包含層は削平を受けていると考えられる。基盤層の上面から土壙等の遺構が検出された。その埋土中からは弥生土器片が少量出土している。Ｔ－31・32付近は遺構密度の非常に高い部分であると推定される。

Ｔ－33～35（第16・18図）

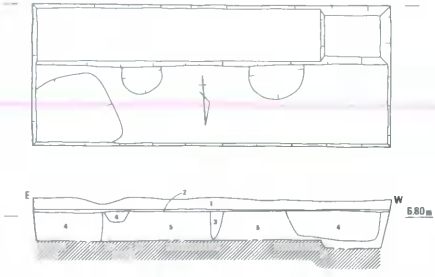
Ｔ－33からＴ－35は、Ｔ－31・32の北側に設定したトレンチで、調査区の中で最も低い場所に位置する。Ｔ－33は近世と思われる水田層が分厚く堆積するトレンチで、その下層に粘土層が確認された。第２層から第４層で72・73等の遺物が出土している。Ｔ－34でも同様に水田層の堆積が認められるが、出土遺物はなかった。Ｔ－35では、耕作土直下から粘土層が堆積している。第２層からは74～78等の遺物が出土している。第３層は円礫を多少含む暗青灰色の粘土である。

Ｔ－36・37（第19～23図）

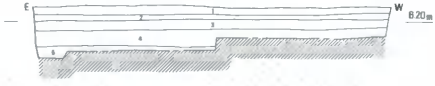
Ｔ－36・37は、調査区の中央部に設定したトレンチである。Ｔ－36はＴ－28の北東に位置する。堆積状況はＴ－27・28に類似するもので、第３層が近世水田層、第４層が中世包含層と考えられる。第５層の下半では弥生土器の集中する部分を確認した。土器溜りと思われるが、遺構としては判然としなかったため、規模等については不明である。第20～22図に示した遺物は全て第５層から出土したものである。大半が弥生時代後期の土器であるが、やや時期幅をもつと考えられる土器も混じっているようである。79・80・84～88は壺形土器の口縁部である。79の口縁端部は下方に拡張され凹線文が３条巡っている。84・86は大きく外反した口縁の端部が斜め上下方に拡張され、ヨコナデされている。87には凹線文３条が巡っている。81は壺形土



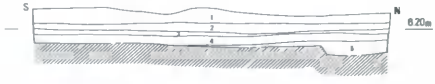
T－31
1．暗灰色粘質土
2．橙褐色砂質土
3．灰白黄褐色砂質土
4．淡灰黄褐色粘性砂質土
5．灰黄褐色砂質土
6．暗黄褐色粘性砂質土
7．明黄褐色粘性砂質土



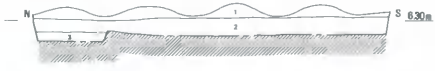
T－32
1．暗灰色粘質土
2．橙褐色砂質土
3．灰白褐色砂質土
4．暗灰黄褐色粘性砂質土
5．黄褐色粘性砂質土



T－33
1．暗灰色粘質土
2．灰色粘質土
3．淡灰黄褐色砂礫混じり粘性砂質土
4．淡灰黄褐色砂礫混じり粘質土
5．淡黄褐色粘質土

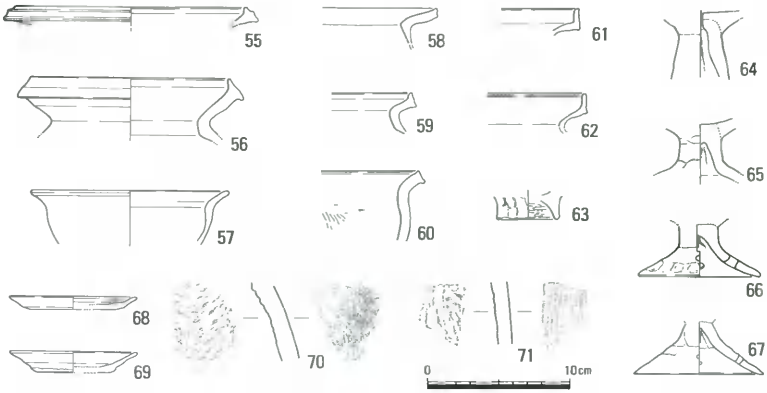


T－34
1．暗灰色粘質土
2．灰黄色砂礫混じり粘質土
3．灰色粘質土
4．灰色粘質土
5．灰黄色粘性礫砂



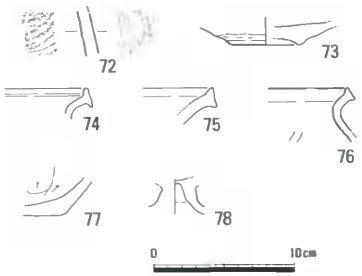
T－35
1．暗灰色粘質土
2．灰褐色粘質土
3．暗黄灰色円礫混じり粘質土

第16図　T－31・32平・断面図，T－33～35土層断面図（1/80）



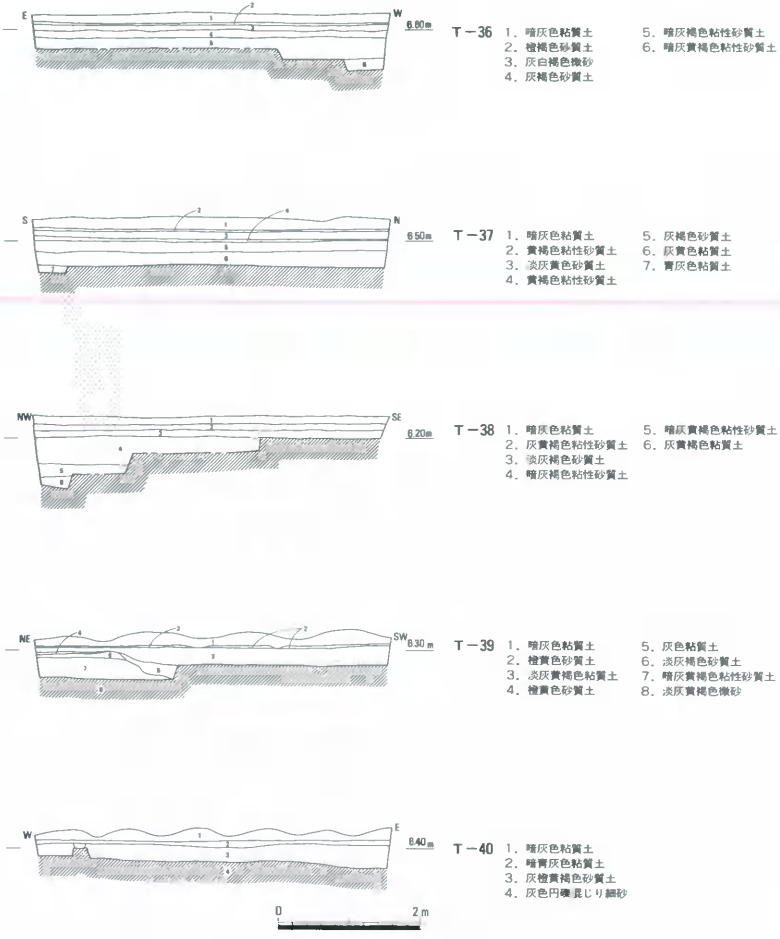
第17図　Ｔ－31出土遺物（1/4）

器の頸部で、タテ方向のハケメによる調整の後、螺旋状に沈線文が施されている。また頸部下端には刺突文が巡っている。**82・83**は頸部断面が「ハ」の字状を呈し、頸部から「く」の字状に外反した口縁部をもつ壺形土器である。**83**の口縁端部はやや上方に立ち上がっている。**91・92**は小型の鉢形土器である。**91**は内外面とも表面が剥落しており調整は不明であるが、内面の一部に不定方向のヘラミガキが僅かに認められる。**92**の内面はヘラミガキされている。外面は下半にヘラケズリが施され一部でヘラミガキがみられる。**93**は台付鉢形土器の底部である。**94**は台付小型壺形土器で全体に摩滅が著しく調整は不明である。**95・96**は「く」の字状に外反する口縁部をもつ壺形土器である。口縁端部は上方に立ち上がりヨコナデされている。内面は胴部上端までヘラケズリが施されている。**97・98**は甕形土器で、「く」の字状に外反した口縁の端部は僅かに上方に立ち上がる。**99～101**も甕形土器で、「く」の字状に外反した口縁部が上方に拡張している。口縁端部は、**99**では退化した凹線文、**100・101**では櫛描沈線文７～９条が巡っている。内面は胴部上端までヘラケズリ、外面はタテ方向のヘラミガキが施されている。**102～111**は高杯形土器である。**102**は内外面にヨコ方向のヘラミガキが施されている。**103**は杯部外面下半がヘラケズリされている。**106**は口縁

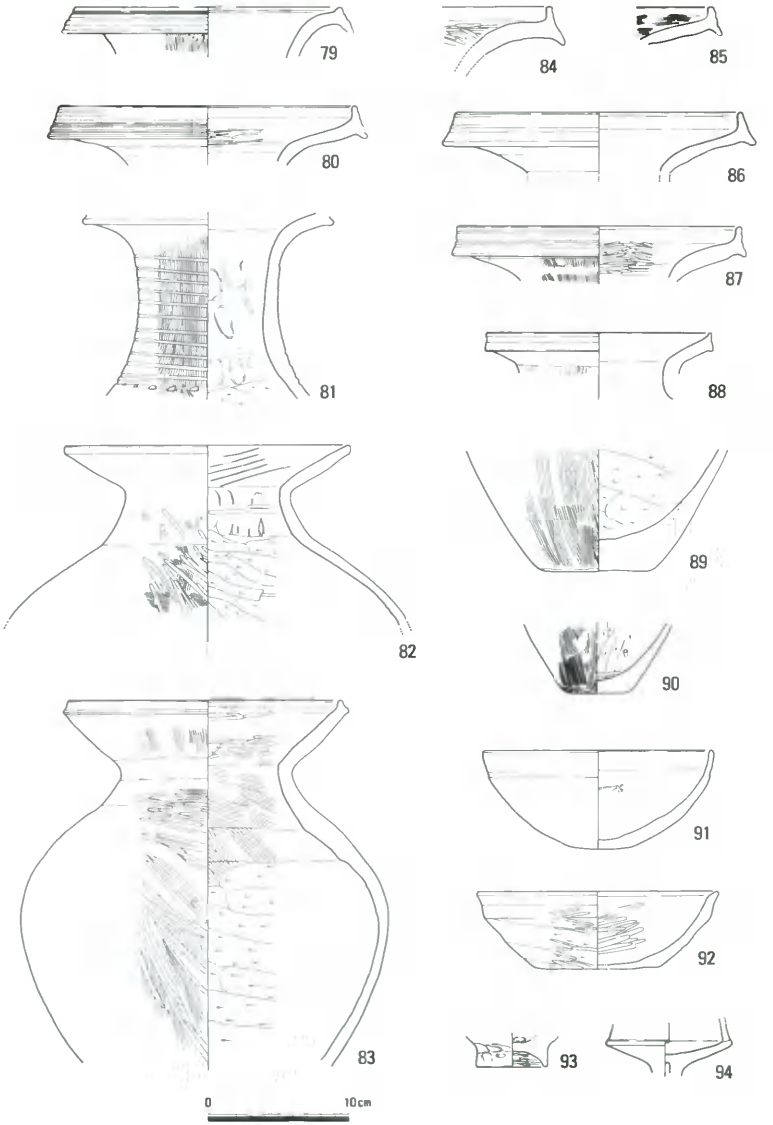


第18図　Ｔ－33・35出土遺物（1/4）

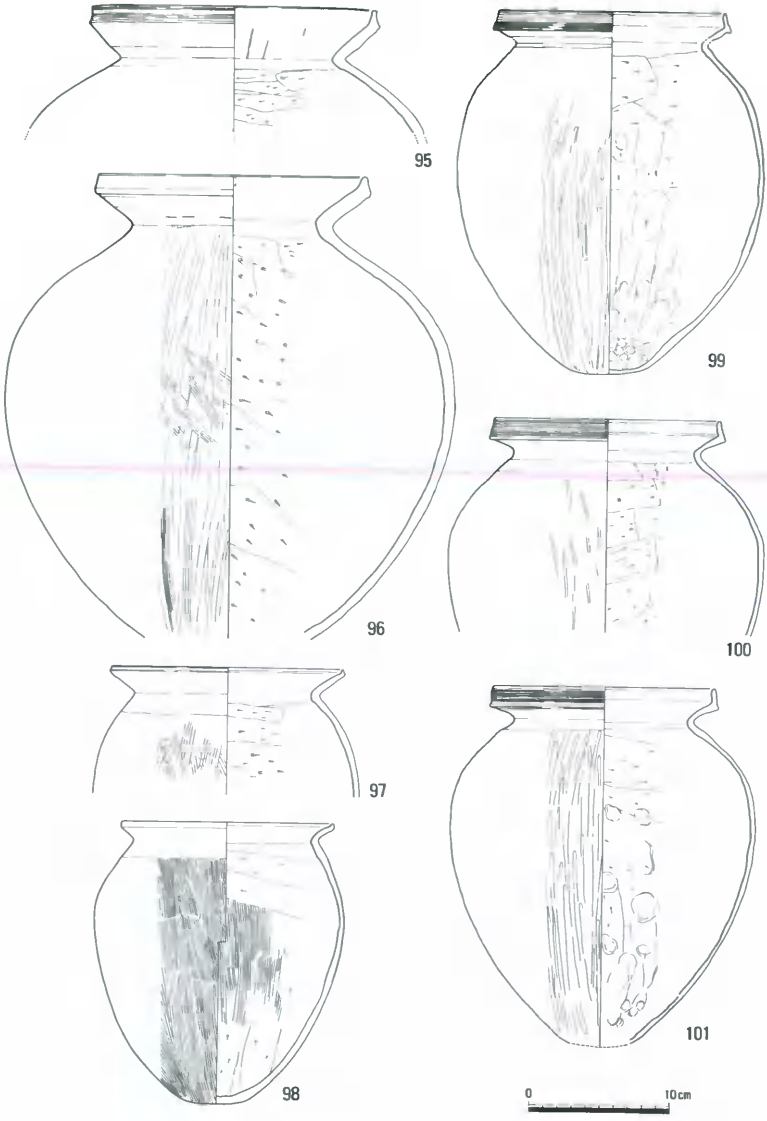
端部上面に３条の凹線文が巡っている。**110・111**は短脚で裾部の４ヵ所に円孔が穿たれている。**112・113**は器台形土器で同一個体と思われる。口縁部は大きく外反し斜め上下方に拡張している。口縁端部側面には鋸歯文、上面には一対の竹管文が巡っている。胴部上半には、タテ方向のハケメによる調整が施された後、竹管文２条と螺旋状の沈線文が巡っている。胴部下半はハ



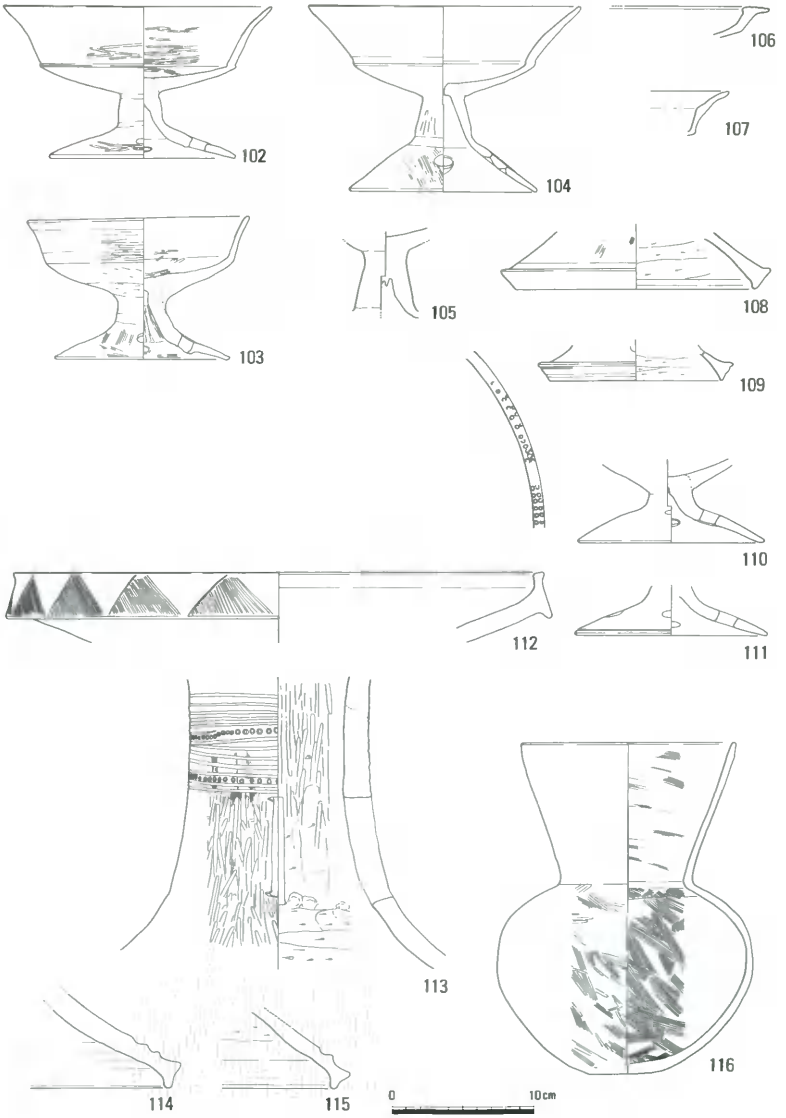
第19図　Ｔ－36～40土層断面図（1/80）



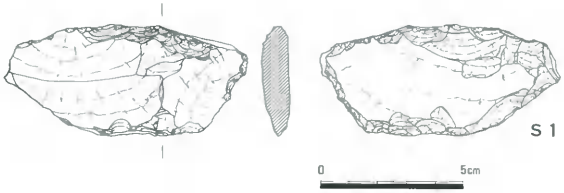
第20図　Ｔ－36出土遺物［１］(1/4)



第21図　Ｔ－36出土遺物［２］(1/4)



第22図　Ｔ－36出土遺物［３］(1/4)



第23図　Ｔ－36出土遺物［４］(1/2)

ケメの後ヘラミガキされ、長方形の透し穴が４ヵ所に開けられている。**114・115**は器台形土器の裾部で、凹線文が２～３条巡っている。**116**は直口壺形土器で、内外面ともハケメによる調整が行われ、外面胴部には不定方向のヘラミガキが施されている。

Ｔ－36では、他に中世土器、石器**Ｓ１**等が出土している。**Ｓ１**はサヌカイト製のスクレイパーとみられる石器で、長さ8.4cm、幅3.9cmを測る。

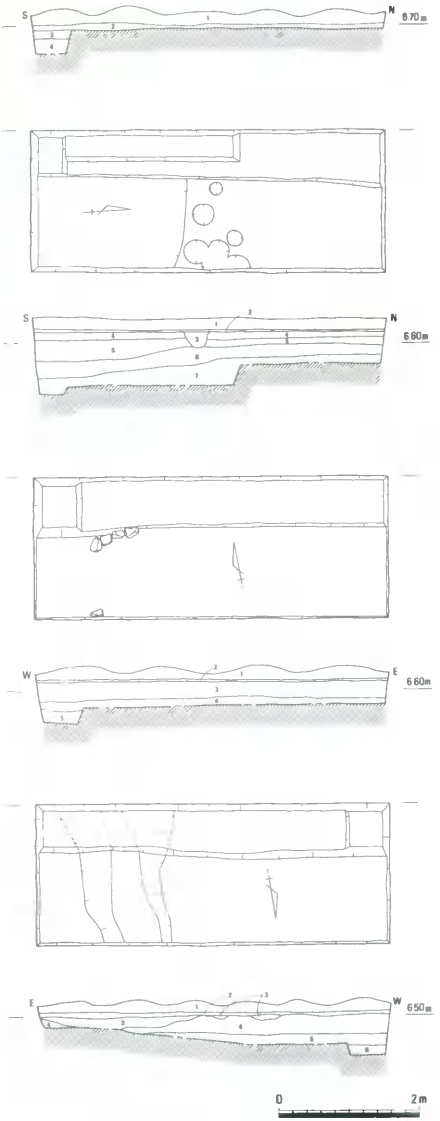
Ｔ－37は**Ｔ－36**の北東約50mに位置するが、堆積状況は全く異なり、弥生時代の包含層は確認されなかった。第３・４層は近世水田層、第５・６層が中世の包含層と考えられる。第７層はグライ化の進んだ粘土である。第５・６層から土師質土器等が出土している。

Ｔ－38～40（第19・26図）

Ｔ－38から**Ｔ－40**は調査区東側に設定したトレンチで、国道429号線沿いに位置している。**Ｔ－38**は、第３層から第５層が遺物を包含する土層であるが、出土遺物は少量である。**Ｃ１**は土錘で第３層から出土した。長さ4.9cm、最大径1.4cmで表面に押圧痕がみられる。**Ｔ－39**では、近世層と思われる第３層下で南に向っての傾斜が認められた。遺物は少量出土している。**Ｔ－40**では、地表下40～60cmで灰色を呈する細砂層が認められた。円礫を多量に含み、東に向って傾斜していることから、西から延びる微高地の縁辺部であると考えられる。

Ｔ－41～46（第24～26図）

Ｔ－41から**Ｔ－46**は、調査区北東部に設定したトレンチで、「雪舟誕生碑」周辺から調査区北東隅にかけて位置する。**Ｔ－41**では、耕作土直下で円礫を多量に含む砂層が認められた。**Ｔ－42**では、第４・５層が中世の包含層と考えられる。第６層の上面は南に向って緩やかに傾斜しており、柱穴数本が検出された。直径は15～35cmで中世のものと考えられる。**Ｔ－42**出土の遺物は**117～119・122・123・125**等である。**117・118**は土師質土器の椀、**119**は白磁皿片である。**122**は亀山焼片である。**Ｔ－43**では、地表下約20cmで石列を検出した。石列はトレンチ西側の第３層中にあり、約20cm大の角礫を４個ほぼ東西方向に並べた状態で検出されており、さらに南西隅で１個が確認された。中近世のものと考えられる。第３層からは**120・121**等の土師質土器が



T－41
1. 暗灰色粘質土
2. 明灰褐色砂質土
3. 灰褐色円礫混じり粘性砂質土
4. 黄褐色円礫混じり細砂

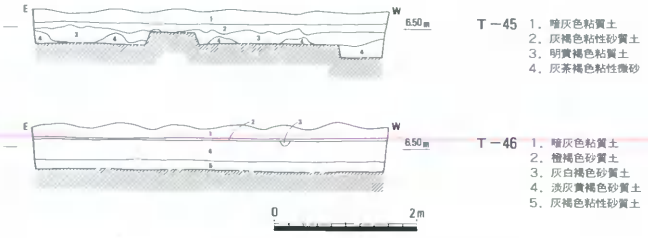
T－42
1. 暗灰色粘質土
2. 橙褐色砂質土
3. 灰白色砂質土
4. 淡灰褐色砂質土
5. 淡灰褐色砂質土
6. 暗灰褐色砂質土
7. 灰黄色粘性微砂

T－43
1. 暗灰色粘質土
2. 橙褐色砂質土
3. 灰褐色砂質土
4. 灰黄色微砂
5. 灰色円礫混じり細砂

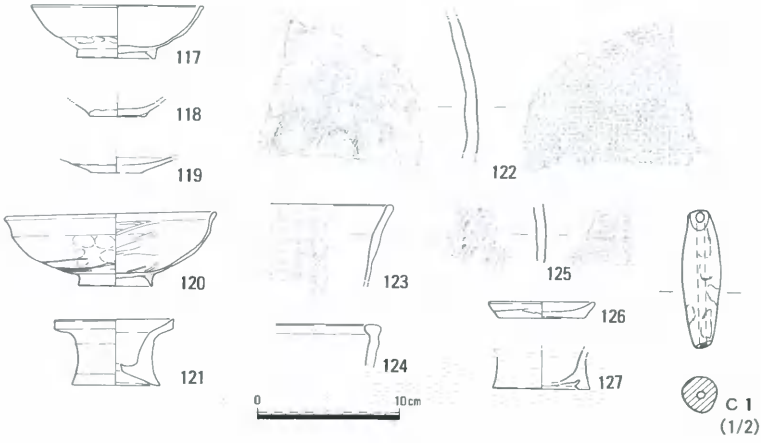
T－44
1. 暗灰色粘質土
2. 灰色粘性砂質土
3. 灰白褐色砂質土
4. 暗灰黄褐色粘性砂質土
5. 灰褐色細砂
6. 暗灰黄色細砂

第24図　T－41土層断面図，T－42～44平・断面図（1/80）

出土している。**121**は口縁部内面から裾部外面にかけてヨコナデされ、底面にはヘラ切り痕がみられる。第４層は微砂、第５層は円礫の混じった細砂層である。**Ｔ－44**では、耕作土直下から近世と考えられる浅い溝状遺構が検出された。ほぼ南北方向に走るものである。第５層は細砂層で円礫が多く入る。**Ｔ－44**からは摩滅した土師質土器、青磁片**124**等少量の遺物が出土した。**Ｔ－45**では耕作土下に花崗岩バイラン土による客土が認められた。その下層は灰褐色を呈する粘性微砂で、下半はグライ化が進んでいる。**Ｔ－46**からは、**126**・**127**、青磁片等が出土した。**127**はＴ－**43**出土の**121**と同じ器種の土師質土器であるが摩滅が著しい。



第25図　Ｔ－45・46土層断面図（1/80）



第26図　Ｔ－38～46出土遺物（1/4・1/2）

表－1　トレンチ調査概要一覧表

トレンチ番号	遺構	遺物包含層	出土遺物	出土量	現表土レベル(m)	遺構、遺物包含層までの深さ(cm)
1	無	無		—	7．05	—
2	溝	無		—	7．30	－23
3	無	無	弥生土器，土師質土器	少量	7．35	—
4	無	無		—	7．60	—
5	無	無	弥生土器，土師質土器	僅少	7．60	—
6	無	無	近世陶器	僅少	7．45	—
7	溝	有	弥生土器，須恵器，土師質土器，白磁	少量	7．65	－25
8	無	有	須恵器	僅少	7．65	－25
9	無	無	弥生土器，土師質土器，近世陶器	僅少	7．22	—
10	溝	有	土師質土器，亀山焼	中量	7．40	－30
11	無	有	須恵器，土師質土器，銭貨（嘉祐元寶）	少量	7．30	－25
12	無	無	土師質土器，鉄釘	僅少	7．25	—
13	無	無	なし	—	7．30	—
14	無	無	なし	—	7．15	—
15	無	有	弥生土器，須恵器	少量	7．55	－25
16	無	有	弥生土器，土師器，土師質土器，白磁	少量	7．35	－15
17	溝	有	陶器，銭貨（寛永通寶）	僅少	7．30	－25
18	柱穴	有	弥生土器，須恵器，内黒土器，土師質土器，白磁，鉄製品	中量	7．40	－35
19	無	有	須恵器，土師質土器，白磁	僅少	7．35	－30
20	無	無	弥生土器，須恵器，土師質土器，青磁	中量	7．70	—
21	無	無	須恵器	僅少	7．15	—
22	無	有	弥生土器，須恵器，中世土器，鉄滓	中量	7．33	－25
23	無	有	弥生土器，土師器，須恵器，土師質土器，鉄製品（鏃）	多量	7．05	－20
24	溝	有	弥生土器，須恵器，土師質土器，白磁，備前焼	中量	6．87	－35
25	無	無	弥生土器，鉄釘	少量	6．98	—
26	無	有	土師質土器，青磁，鉄滓	中量	7．00	－55
27	柱穴	有	弥生土器，土師器，須恵器	多量	6．95	－25
28	土壙，柱穴	有	弥生土器，土師質土器，亀山焼，陶器，鉄製品，鉄滓	多量	6．98	－33
29	無	無	弥生土器，青磁，陶器	少量	6．60	—
30	無	無	弥生土器，須恵器，土師質土器，白磁	中量	6．70	—
31	竪穴住居，溝	有	弥生土器，土師器，須恵器，土師質土器，白磁，近世陶磁器	特に多量	7．15	－40
32	土壙，柱穴	無	弥生土器，土師質土器	少量	7．05	－20
33	無	無	弥生土器，須恵器，近世陶磁器	少量	6．40	—
34	無	無	なし	—	6．45	—
35	無	無	弥生土器，中世土器	中量	6．45	—
36	土器溜り？	有	弥生土器，土師器，中世土器，石器（スクレイパー）	特に多量	6．80	－20
37	無	有	須恵器，土師質土器，染付	中量	6．82	－40
38	無	有	弥生土器，土製品（土錘）	僅少	6．50	－30
39	無	無	須恵器，陶器	僅少	6．50	—
40	無	無	なし	—	6．65	—
41	無	無	なし	—	6．85	—
42	柱穴	有	須恵器，土師質土器，亀山焼，白磁	少量	6．95	－20
43	石列	有	土師質土器	中量	6．90	－20
44	溝	無	弥生土器，須恵器，土師質土器，青磁	少量	6．68	－18
45	無	無	須恵器，土師質土器，備前焼	僅少	6．73	—
46	無	無	須恵器，土師質土器，青磁	少量	6．80	—

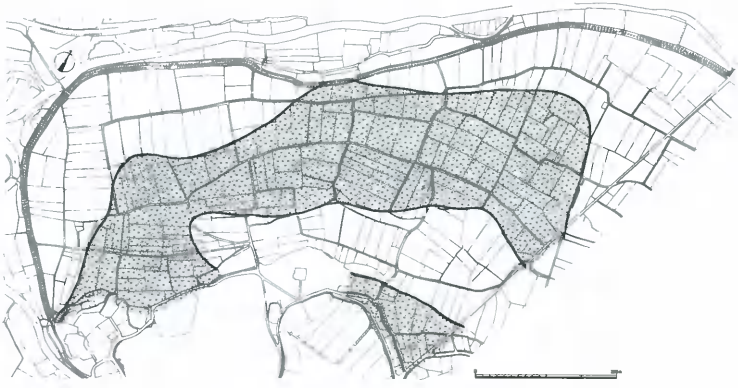
第４章　まとめ

今年度の確認調査では、前年度調査で国道429号線以西に存在が推定された微高地の具体的な規模・内容等について把握することができた。

調査区南西部では、中世の包含層と同時期の遺構が確認された。調査区北西部では、包含層・遺構は確認できなかった。遺物の出土量は少なく摩滅も著しいことから、流れ込みによる堆積と考えられる。下層は砂質土・粘性微砂の堆積が顕著であった。調査区中央部では、中世包含層下に弥生時代から古墳時代にかけての包含層が分厚く堆積している。遺物が多量に出土しており器種も豊富である。遺構は中世のものしか検出していないが、Ｔ－36等遺物の集中する地点も存在することから、弥生時代から古墳時代の遺構密度も高い部分であると思われる。調査区北東部では、中世の遺構・遺物が認められるが、砂・円礫の堆積が顕著であった。

これらのことから、高梁川旧河道によって形成された微高地が、調査区南西の「鶴山」裾から北東の「雪舟誕生碑」付近まで広がると考えられ、弥生時代から中世にかけての集落跡が想定される。

また、調査区南東隅は南方の三須丘陵の裾部にあたり、近世以降の開墾により包含層の削平を受けているものの、遺構密度の非常に高い部分で、微高地から南に湿地帯を挟んで、丘陵裾部に広がる遺跡の一端を覗かせていると考えられる。



第27図　遺跡範囲想定図（1/8,000）

1．赤浜散布地全景（北東から）

2．T－1（北から）

3．T－2（西から）

4．T－7（北東から）

5．T－9（北から）

図版２

１．Ｔ－10（北から）

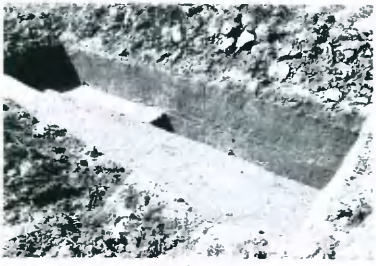
２．Ｔ－11（南東から）

３．Ｔ－12（東から）

４．Ｔ－13（北から）

５．Ｔ－15（北東から）

６．Ｔ－16（北東から）



７．Ｔ－17（北東から）

８．Ｔ－18（東から）

１．Ｔ－19（北東から）

２．Ｔ－20（北東から）

３．Ｔ－22（北から）

４．Ｔ－23（東から）

５．Ｔ－24（南西から）

６．Ｔ－25（東から）

７．Ｔ－26（南東から）

８．Ｔ－27（西から）

図版４

１．Ｔ－28（北東から）

２．Ｔ－31（北から）

３．Ｔ－32（北東から）

４．Ｔ－33（北西から）

５．Ｔ－34（北東から）

６．Ｔ－36遺物出土状況（西から）

７．Ｔ－37（南東から）

８．Ｔ－38（南東から）

１．Ｔ－39（北から）

２．Ｔ－40（南西から）

３．Ｔ－41（南東から）

４．Ｔ－42（南東から）

５．Ｔ－43石列検出状況（北から）

６．Ｔ－44（北西から）

７．Ｔ－46（北西から）

８．Ｔ－36埋め戻し風景（南から）

図版６

出土遺物（１）

102

103

104

112

94

113

116

41

91

67

66

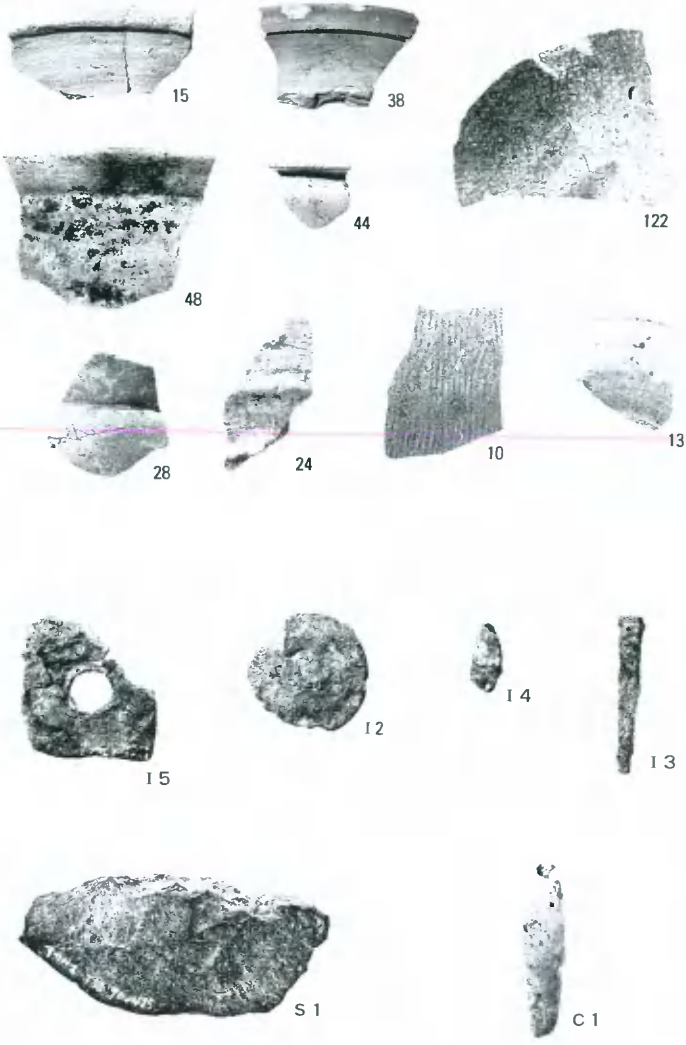
120

117

121

出土遺物（２）

図版８



出土遺物（３）

岡山県埋蔵文化財発掘調査報告 77

赤浜散布地

平成3年3月20日　印刷
平成3年3月30日　発行

編　集　岡山県古代吉備文化財センター
発　行　岡山県教育委員会
印　刷　西日本法規出版株式会社